2023年度特定研究奨励金 報告書

報告者所属・氏名

所属	生活文化学科	氏名	小坂　光

奨励金による研究活動・実績（具体的に記載）

中学校音楽科の 3 年間の合唱学習における自己調整学習の熟達を視点として、生徒の学習認識の変容プロセスを明らかにしようと試みた。226 名を対象とした質問紙調査の結果，認知的方略の使用が自己効力感，内発的価値に大きな影響を与えていた。また，自己調整学習方略得点の高群は自己効力感に，低群は内発的価値に大きな影響を与え，次の学習の動機づけが行われていることが明らかになった。さらに、生徒の学習認識の変容プロセスには技術習得の側面である自己調整学習だけではなく、他者との関わりによる側面も重要である。他者との協同的な活動の理論であるエンゲストロームの拡張的学習の枠組みの中に自己調整学習の視点を取り入れることで、個人の自己調整学習だけでなく、他者と協同的な活動に取り組むという視点を取り入れた認識の変容プロセスを明らかにすることができるという、合唱の学習を学術的な視点から捉え直す素地を作ることとなった。

これらの結果について、以下の研究大会にて発表済みである。

「中学校音楽科における自己調整学習と自己効力感・内発的価値の関連―卒業に向けた合唱練習を対象として―」中国四国教育学会第 75 回大会（広島大学）

また、以下の学術論文を投稿済みである。

「中学校音楽科における合唱の自己調整学習が自己効力感・内発的価値に与える影響」教科教育学会誌第 46 巻，第 2 号（査読中）

さらに、2024 年度の以下の研究大会にて発表予定である（エントリー済み）。

「Self-regulated learning in school choir competition practice: Targeted at third-year on junior high school students」International Society of Music Education 36th World Conference（ヘルシンキミュージックセンター）

「3 年間の合唱の学習における中学生の変容―エンゲストロームの拡張的学習理論の視点から―」日本音楽教育学会第 55 回大会（玉川大学）